【土木史研究　講演集　Vol.25　2005年　企画論文】

CST MUSEUM誕生までの経緯*
The Birth of CST MUSEUM

高田 邦道**

By Kunimichi Takada

小嶋学部長の目標のひとつに、「伝統校の復活と革新」があります。土木工学科の新谷洋二教授が定年を迎えられた時に、都市計画審議会資料や研究資料の寄贈を申し込まれました。この資料に加え、建築学科の笠原敏郎教授や市川清志教授、社会交通工学科の谷藤正三教授の建築・都市・交通計画関係の資料が保管されておりましたので「都市計画資料室」構想を打ち出しました。しかしながら、「都市計画」を専門とする小嶋学部長と「交通計画」を専門とする著者とでの提案は『我田引水』とみなされるという意見もあり、全学科に関連する方法論を模索してきました。この間いろいろな先生から、橋梁や建物の一部あるいは公的機関で廃棄になった機械装置の持ち込み要請がありました。その一つひとつは、歴史的・技術的価値、設置スペース等による判断で取捨選択をしてまいりました。この判断をする過程で、『学芸員』の必要性を感じました。

このような中で駿河台校舎１号館の建て替えが迫ってきました。建て替え計画は10年以上も前からありましたが、いざ壊す段になると、旧１号館の装飾などの保存に対する声が大きくなりました。そこで、旧１号館の建築装飾の一部を新１号館の中に陳列保管することにしました。

さらに、船橋校舎を歩くと、風向風速計、潮流発電装置、風力発電装置などが野外展示されていました。これらの故事来歴と装置の意味を示せば、鉄クズ化寸前のものを宝物に変えられるのではなかろうかと考えました。

以上のようにアーカイブズ(文書保管)と工学的「もの」の収集・展示という二つの機能を合せもつセンターにすれば全学部的施設になるとし、肥後尚志前学部次長の命名で「科学技術史料センター」となりました。

このように煮詰まってきましたが、実物や模型などの「もの」を収集・展示する建物がないのにミュージアムでもなかろうとか、アーカイブズと二つの機能をもつのはミュージアムといわないなどの議論もありました。しかし、取り敢えず、現存する価値ある「もの」をパンフレットに、アーガイブズについては企画展示を通して少しずつ紹介していこうということで2004年４月１日に日本大学理工学部科学技術史料センター（略称CSTミュージアム）をスタートさせました。

６月には千葉県の担当窓口の専門家に視察して戴き、「これからのミュージアム像を持っており、過去の「もの」だけでなく交通試験路やテクノプレース15を含めてキャンパスミュージアムを実現してほしい」と期待と評価を得ました。そこで10月28日に対外的なオープニングセレモニーを開催しました。このセレモニーから約１年間の実績(見学者数など)をもってミュージアムとしての正式認可を申請する予定です。

「学芸員」資格取得制度も千葉県内博物館の実習提供の協力があり、文科省の認可もとれ2005年４月からスタートさせることになりました。

今後、卒業生からも資料提供を頂きながら、近代から戦後にかけての学生生活や授業内容などの発掘に努めるとともに、教授名鑑などの作成をおこない、広く社会に情報発信したいと考えています。

図－１　CST MUSEUMのシンボルマーク
〔デザインは、駿河台校舎旧1号館(昭和４年竣工)の正面玄関尖頭アーチの鋳鉄飾り(“工”の文字が入る)を取り入れている。〕

*　Key Words: CST MUSUM、アーカイブズ、学芸員
**　正会員　CSTミュージアム副センター長
（〒274-8501　千葉県船橋市習志野台7-24-1）